

朝の館内放送

令和6年9月2日

おはようございます、市長の中村健です。

今年度に入り、例年以上に未成年の子どもたちの話を聞く機会がありました。

人によって性格や家庭環境も様々なので、当然、関心のあること様々なのですが、率直に感じたのは感覚の違いです。

教育、保育、子育て支援、公園整備など、私たちが良かれと思ってやっていることでも、一番の当事者にそれが伝わっているとは限りません。

特に、子どもや外国人などは、当事者の声が行政に届きにくいのが現実であり、それが故に行政の独り善がりになってしまう危険性も高いと考えます。

みなさん、大人の常識、日本人の常識、役所の常識など、一方的な見方だけで物事を判断していませんか？

子どもや外国人を対象としたものに限らず、個々の施策において、対象となる市民がどの点に満足していて、どの点に不満を感じているか、それを把握することは良い仕事をしていく上で欠かせない視点です。

中には、現実性に乏しかったり、偏った意見もあるかもしれません。

しかし、それも生の声として、真摯に受け止める姿勢が重要です。

困りごとや悩みごとであればなおさらです。

よく、管理職になり現場から距離が離れると、理屈だけで物事を考え、市民の生の声を軽んじているかのような発言をする職員がいますが、決して望ましい姿勢だとは思いません。

市民に寄り添った、心の通った市政運営をお願いします。

できる限り当事者となる市民の生の声を聴き、その視点も加味した上で、改善・改革に繋げ、より良い市民サービスを提供していきましょう。

以上で、朝の館内放送を終わります。